

中野区立第二中学校学校だより

若葉 第243号



令和4年10月11日

令和4年度 第6号
発行者：校長 曾我 竜也

第1学年「宿泊学習」(軽井沢)終了 その目的は?

9月9日(金)～11日(日)の2泊3日、第1学年は、長野県軽井沢市の「軽井沢少年自然の家」で宿泊学習を実施しました。第1学年は、入学したての4月21日(木)に日帰りで校外学習(千葉県・野田清水公園)を実施しています。今回の宿泊学習の一番の目的は、4月に行われた校外学習における成果と課題をもとに、宿泊を伴った集団活動を通して、共に協力し合うことにより、よりよい人間関係を築くことにあります。

ところで、宿泊学習はなぜ実施するのでしょうか。それは『学習指導要領』の中に「特別活動」といった授業の時間があり、その中の活動の一つに「学校行事」があります。「学校行事」については、内容に応じて適切な授業時数を充てることになっています。そして、「学校行事」は(1)儀式的行事、(2)文化的行事、(3)健康安全・体育的行事、(4)旅行・集団宿泊的行事、(5)勤労生産・奉仕的行事の5つの行事に分かれています。つまり、宿泊行事は、(4)旅行・集団宿泊的行事にあたり、実施されるわけです。特別活動の目標は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いの良さや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成することとなっています。さらに、「旅行・集団宿泊的行事」は特別活動の目標を受け「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活のあり方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにする。」となっています。

この目標に向かって生徒たちは、計画(事前学習)・実施(体験活動)・振り返り(事後学習)を行い、確かな学力(知)、豊かな心(徳)、健やかな心(体)のバランスのとれた生きる力を培います。

第2学年になると、校外学習(鎌倉)があります。日帰りではありますが、班ごとに鎌倉までの交通経路、時間、見学場所、見学ルート、昼食場所、経費等を調べ、生徒の力ですべてを計画することになっています。

このように生徒たちは3年間を通じ、学年相応の実践力を培い、「旅行・集団宿泊的行事」の集大成として修学旅行に臨むこととなります。

第3学年「修学旅行」(京都・奈良方面)終了 その意義は?

9月28日(水)～30日(金)の2泊3日で修学旅行(京都・奈良方面)が実施されました。コロナ禍の収束が見られない中での修学旅行でしたが、全員無事に帰ってくることができました。まずは一安心です。

さて、小・中・高に関わらず、学校行事の中で最も印象深い思い出、出来事に修学旅行をあげる人は多いと思います。ですが修学旅行の起源が「訓練」であったことや、行き先などの詳細がいつ・どのように決まるかなど、その歴史や仕組みはあまり知られていません。

現在では当たり前のように実施されている修学旅行ですが、公益財団法人日本修学旅行協会によると、そのルーツは遠足にあるそうです。協会によれば、学校の遠足というのは、かつて軍隊でいうところの行軍練習として始まったそうです。目的が目的だけに学校行事とはかけ離れているように思われますが、当時の学生は日の丸のハチマキをして、日の丸弁当を持参し、歩きながら目的地を目指したそうです。その中で、教員を育てるための教育機関・高等師範学校の生徒たちから、「それだけではつまらない!!」といった声が上がリ、そこで師範学校の先生方が考え出したのが、行軍練習に学びの要素を取り入れることだったそうです。そうして1886(明治19)年2月15日から25日にかけて、東京師範学校で遠足なるものが行われました。通常に行軍練習に加えて、目的地に到着地、現地で植物や鉱物の採取、生物調査などが追加され、この学びの要素を含めて宿泊するというのが、修学旅行の始まりと言われているそうです。しかし、その誕生は折しも日本が世界との戦争へと足を踏み入れていく激動の時代だったため、関東の学校が関西に向かう時は、二見浦(三重県)に宿泊して伊勢神宮を参拝し、奈良・京都へと向かったそうです。逆に、関西から関東へ向かう学校は、靖国神社を訪れるという要素が加えられました。戦争が激化した1940(昭和15)年に修学旅行が制限・規制されるまで続けられたそうで

す。そのため、現在の修学旅行とは少しイメージが異なりますが、「大事なものは観光要素よりも学びの要素が取り入れられていること」に、修学旅行の意義があるといえます。

現在では、生徒のためのイベントと思われがちな修学旅行ですが、実は学校や先生たちにとっても同じことがいえます。その理由として、修学旅行には、旅行中はもちろん、事前・事後の学習を含め、学校行事の中で一番お金と手間がかかっているからです。そして、何よりも”学び”に重点が置かれる修学旅行は、事前・事後の学習を含めて”考えること”が重要です。

第3学年での修学旅行を想定し、第1学年では校外学習と宿泊学習を通じ、集団行動について学びます。そして、第2学年では、前述したように、1日の行程を生徒自ら考え、企画・実施する力を校外学習で培い、第3学年では「京都・奈良」の文化や歴史について知識を積み上げ、現地での学習につなげていきます。そして現地で学んだことを振り返り、全員で共有します。つまり修学旅行は3年間の学校行事の集大成と言った一大行事といえるのです。

ですから、修学旅行の準備は驚くほど早く始まります。中学校であれば1年生の秋頃に決定し、3年生の春から秋の実施に向けて準備を進めていきます。日時と電車の割り振りは、東京都内の全中学校の要望を「東京都中学校長会修学旅行対策委員会」にあげ、対策委員会で調整を繰り返し、毎年11月後半に2年後の出発日が抽選で決定します。

話は、師範学校の修学旅行に戻りますが、戦争が激化した1940（昭和15）年に修学旅行が制限され、1943（昭和18）年の記録を最後に修学旅行は中止されました。戦後になると、早くも1946（昭和21）年には各地の学校で修学旅行が再開された記録が残っているそうです。また、この頃の修学旅行は米を持参する必要があったそうです。しかしながら、戦後復興とともに、修学旅行も実施校も増加し、1953（昭和28）年には、全国の中学校の87%が修学旅行を実施したそうです。そして、1958（昭和33）年の学習指導要領の改定で、修学旅行は学校行事の中の教育活動の一つとして位置づけられ、ここで初めて全国的に法規上明確なものとなりました。

その後、修学旅行専用列車が作られるなど、修学旅行は量的にさらなる拡大をしていったそうです。

最後に、学校行事の集大成の一つである「修学旅行」の意義（物事存在・実行などにおける価値や重要性）について記載します。

各学年の発達段階に合わせた校外学習、宿泊学習を繰り返すことで、

- (1)「多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付ける。」
- (2)「集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようになる。」
- (3)「自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。」

3年生の皆さんには、修学旅行を通じ、このような力が培われたものと信じます。

10月7日(金)前期終了、10月17日(火)後期スタート！！

4月6日の始業式、7日の入学式を皮切りに、第1学年校外学習、第76回運動会、定期考査Ⅰ・Ⅱ、第2学年職場見学、Ⅰ組宿泊学習、第1学年宿泊学習、6年生を迎えるのオープンキャンパス①・②、連合陸上大会、第3学年修学旅行、生徒会役員選挙といった様々な学校行事等を経験し前期が終了しました。

コロナウイルス感染症対策は依然継続されていますが、以前のような厳しい規制はなく、学校にコロナ禍前の活気が戻りつつあります。変わらないのはマスク着用の義務です。職員室で時々、マスクを外した先生の顔を見かけると、「おや、どちら様？」と感じてしまうことがあります。生徒に関しては、マスクを着用しているときの方が、名前が分かると言った逆転現象が生じています。そもそも、一般的に「日常生活において、マスクをしてはいけない」といったルールが存在しないことを考えると、コロナが収束してもマスクを着用し続ける人が一定数出てくることと思います。(学校生活におけるマスク着用ルールは東京都教育委員会に準じて指導しています)

人とのコミュニケーションの基本は「話す・聞く・見る」です。「見る」の中には、相手の表情から相手の心情を察するといったものがあります。今は、この術を生徒たちに伝えられず、非常に歯がゆいのですが、後期は、マスクを着用したコミュニケーションの中で「話す・聞く・(心の目で)見る」術を生徒たちに伝えていく必要があると考えています。「集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようになる。」といった学校行事の意義がその背景にあるからです。